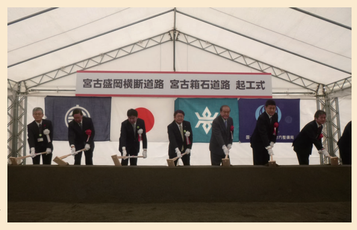
復興道路
復興支援道路

宮古盛岡横断道路
暮目～腹帯、川井～箱石、平津戸・岩井～松草

開通までのあゆみ

年	暮目～腹帯、川井～箱石	平津戸・岩井～松草
平成23年 3.11	東日本大震災発生	
平成23年度	11.21 事業評価手続き開始 11.21 事業化決定・予算成立 11.25 復興道路会議	11.21 事業評価手続き開始 11.21 事業化決定・予算成立 11.25 復興道路会議
平成24年度	11.8 「事業促進PPP」始動 11.8 中心杭設置式（根市～箱石）  中心杭設置式▶	4.21 中心杭設置式(平津戸・岩井～松草)  中心杭設置式▶
平成25年度	11.30 さんこくニュース「三陸国道」を事務所HP掲載開始 11.30 起工式  起工式▶	
平成26年度	ダンプ運転マナーアップ運動の実施	8.24 「事業促進PPP」始動 8.24 起工式  起工式▶
平成27年度	安全祈願祭 腹帯清水トンネル  ▲安全祈願祭(腹帯清水トンネル)	安全祈願祭 平津戸トンネル  ▲安全祈願祭(平津戸トンネル)
平成28年度	安全祈願祭 片巣トンネル 腹帯水神トンネル 茂市トンネル 貫通見学会 腹帯清水トンネル  ▲安全祈願祭(片巣トンネル)	安全祈願祭 岩井第一トンネル 岩井第二トンネル  安全祈願祭(岩井第一・第二トンネル)▲
平成29年度	安全祈願祭 ひきめトンネル 貫通式 片巣トンネル  ▲貫通式(片巣トンネル)	実貫通 岩井第一トンネル 平津戸トンネル  ▲実貫通(岩井第一トンネル)
平成30年度	安全祈願祭 川井第１トンネル 川井第２トンネル 上川井トンネル 貫通式 腹帯水神トンネル  ▲安全祈願祭 (川井第1・第2トンネル)	貫通式 平津戸トンネル 実貫通 岩井第二トンネル 安全祈願祭 与部沢トンネル  ▲貫通式(平津戸トンネル)
平成31年度(令和元年度)	貫通式 上川井トンネル 茂市トンネル 川井第２トンネル 茂市トンネル ひきめトンネル  ▲貫通式(ひきめトンネル)	安全祈願祭 松草トンネル 実貫通 与部沢トンネル  ▲与部沢トンネル
令和2年度	貫通式 川井第1トンネル 7.12 開通「宮古港IC～宮古中央IC」 3.28 開通「暮目～腹帯、川井～箱石」  ▲腹帯明かり部	実貫通 松草トンネル 3.28 開通「平津戸・岩井～松草」  ▲門馬地区明かり部

復興道路
復興支援道路

宮古盛岡横断道路
墓目～腹帯、川井～箱石、平津戸・岩井～松草

早期着工・完成を目指して

「復興道路会議」について

一日も早い完成に向けて「スピードアップ」が必要

スピードアップのポイント

1. 全ての関係者に対する事業進捗への合意形成
2. 国・県・市町村・関係機関の連携による課題解決

「復興道路会議」を設置

会議の構成





▲復興道路会議の様子

- ●県知事
- ●東日本大震災復興対策本部
- ●現地対策本部長（現 復興大臣政務官）
- ●関係市町村長
- ●地元経済界
- ●地元メディア
- ●東北地方整備局長

岩手県
平成23年
11月25日 設置

宮城県
平成23年
11月25日 設置

福島県
平成23年
11月26日 設置

復興道路
復興支援道路

宮古盛岡横断道路
葛巻～腹帯、川井～箱石、平津戸・岩井～松草

早期着工・完成を目指して

全国で初めて「事業促進PPP※」を導入

三陸沿岸道路の復興事業では、国内初の事業促進 PPP を導入しました。
事業促進 PPP とは、官民がパートナーを組み、官民双方の技術・経験を活かしながら効率的なマネジメントを行うことにより事業の促進を図るものです。

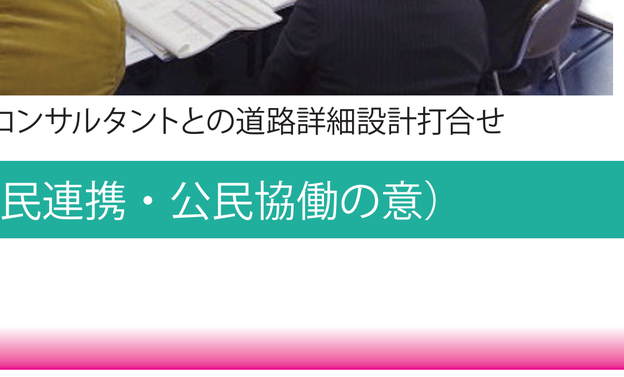
民間技術者チームは、「事業管理」、「用地」、「調査設計」、「施工」、「施工監理」のエキスパート（専門家）で構成されています。」
それぞれが連携しながら、全体の最適な進め方を検討・実施しました。

事業促進PPPの事業体制




▲ 関係市町村との協議の様子


▲ 地元説明会での様子



▲ JRとの現地立ち会いの様子

▲ 電力関係者との協議の様子（立会）

▲ 設計コンサルタントとの道路詳細設計打合せ

※PPP・・・Public Private Partnership の略（官民連携・公民協働の意）

復興道路
復興支援道路

宮古盛岡横断道路
葛巻～腹帯、川井～箱石、平津戸・岩井～松草

早期着工・完成を目指して

各分野の専門家が専任・常駐し 迅速な合意形成に向けて邁進

専任・常駐

- 専任・常駐により、即座に課題への対応が可能
- 発注者チームとPPPチームの密接情報交換が可能となり、あらかじめPPPで検討した内容を発注者と調整することにより、方針の食い違い手戻りを防止
- 関係機関や地権者の疑問や要望に対して迅速に対応
- 地元・関係機関と接する機会が増え、地元要望や問題点の早期把握が可能


▲関係機関協議の様子（立会）


▲道路詳細設計打合せ

各分野（事業監理、調査・設計、用地、施工）の専門家の配置

- 発生した課題に対して、各分野の専門家による多方面からの検討により、解決策を早期に提示
- 施工担当によるフィージビリティの確認、用地担当による用地リスクの考慮、地元要望の反映等により設計成果の品質が向上し、施工時の手戻りを最小化
- あらかじめ事業の各段階でのリスクを抽出し、戦略的な対応策の立案により事業の遅延を防止
- 事業監理、施工担当による実現性の高い工程の立案と進捗管理

課　　題
- H25年度の工事着手を目標。
- 複数におよぶ関係機関との設計協議などに膨大な時間を要する。

取り組み
- 協議相手の全関係機関とPPPが一同に介して協議を実施。
- H24年から協議を複数回実施。

短期間での合意形成を実現


▲ 関係機関協議の様子



▲ 関係機関現地立会の様子

分かりやすい説明資料を用いた地元協議の促進


インターチェンジ
VR（バーチャルリアリティ）


ハーフインターチェンジ
パース図


▲完成予想図パネルによる住民説明の様子

説明会参加者の声

災害が発生した時には幹線道路のダブル化で心強い。

病院への送り、迎えが早くなり楽になりそうだ。

物流が活発になりそうだ。

復興道路
復興支援道路

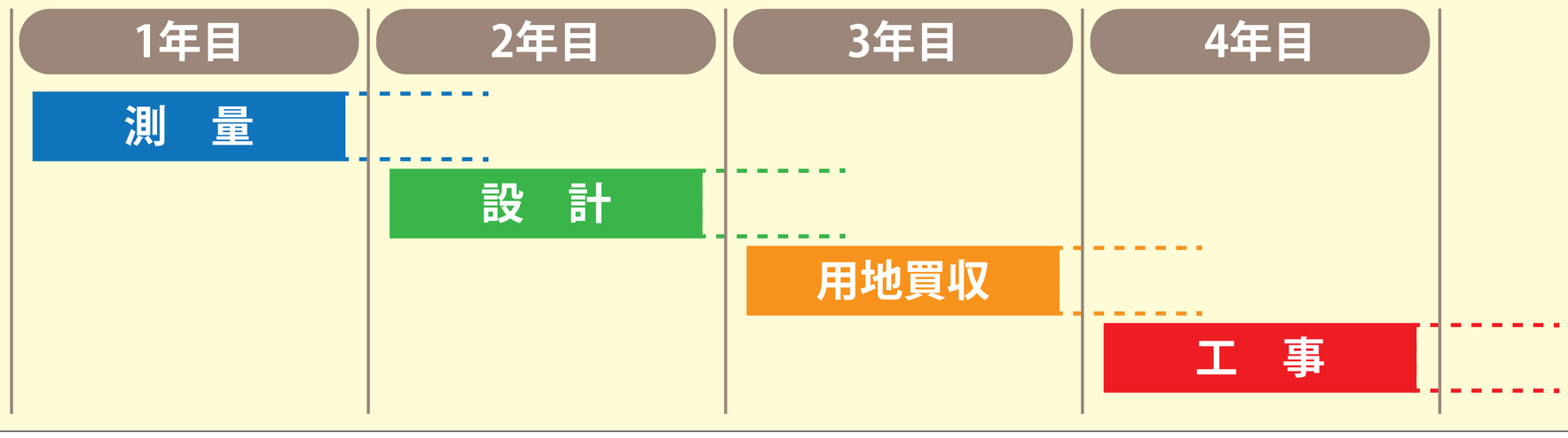
宮古盛岡横断道路
葛巻～腹帯、川井～箱石、平津戸・岩井～松草

早期着工・完成を目指して

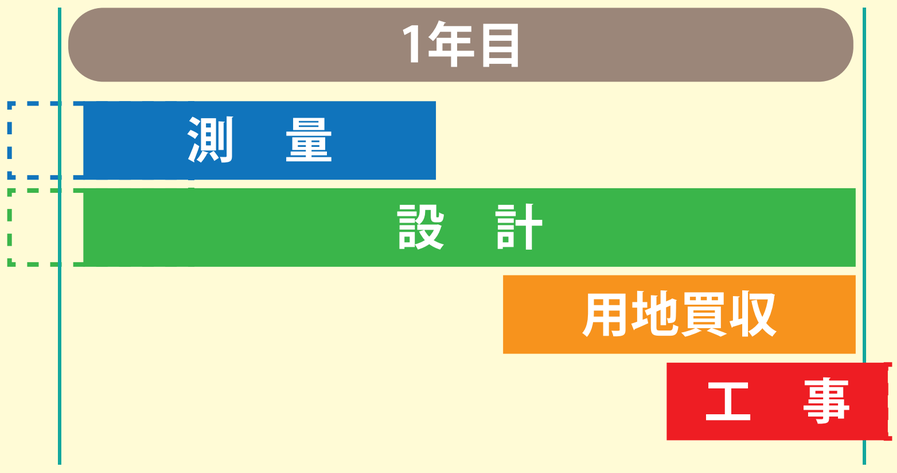
事業プロセスを並列で進めました。

通常は新規事業化から工事着工まで、4年かかるところを、「地元の協力と熱意、国会、中央の理解と予算上の配慮、国、県、市町村の連携、事業促進ＰＰＰに代表される官民連携、各プロセスの「並列進行」が原動力となり、大幅に短縮して実施しました。

通常の流れ



今回の流れ

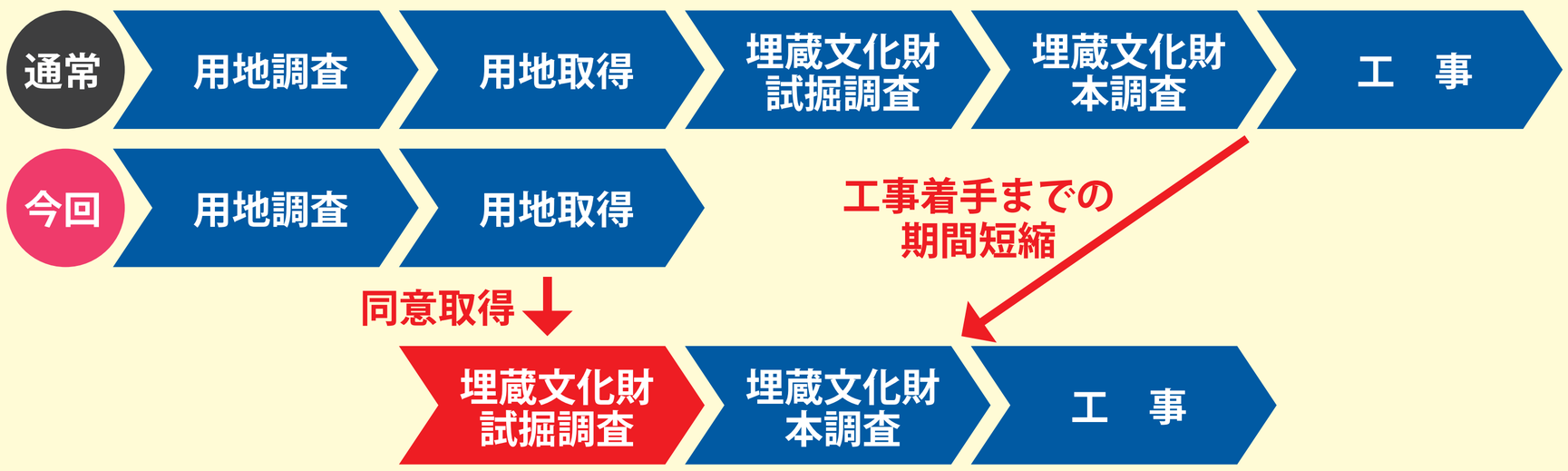


復興道路着工への原動力

- ●地元の協力と熱意
- ●国会、中央の理解と予算上の配慮
- ●国、県、市町村の連携
- ●官民連携
- ●各プロセスの並列進行

【設計・協議の効率化：工程の短縮】各プロセスの並列進行

埋蔵文化財試掘調査の用地取得前実施による工程短縮




▲支障移転調整会議の様子


▲埋蔵文化財試掘調査立会の様子


▲用地調査確認サポートの様子

復興道路
復興支援道路

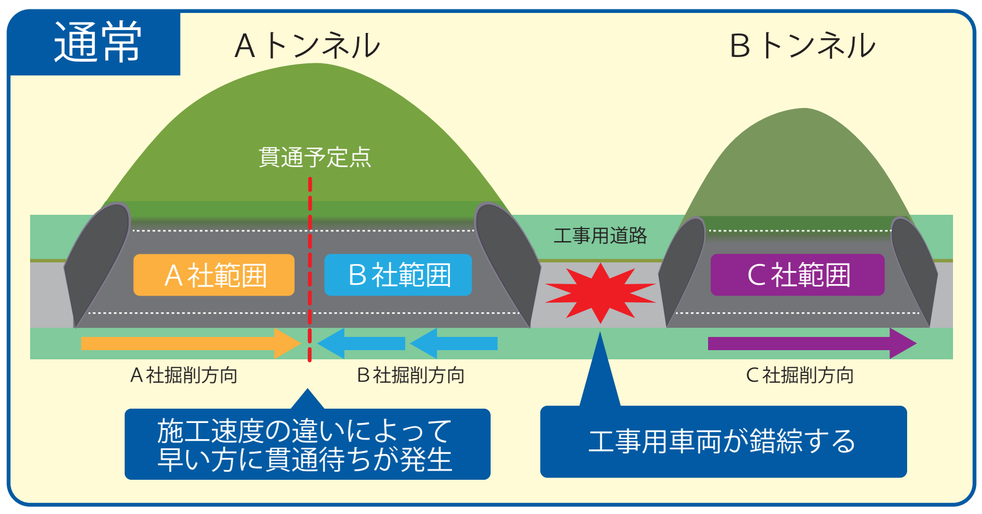
宮古盛岡横断道路
葛巻～腹帯、川井～箱石、平津戸・岩井～松草

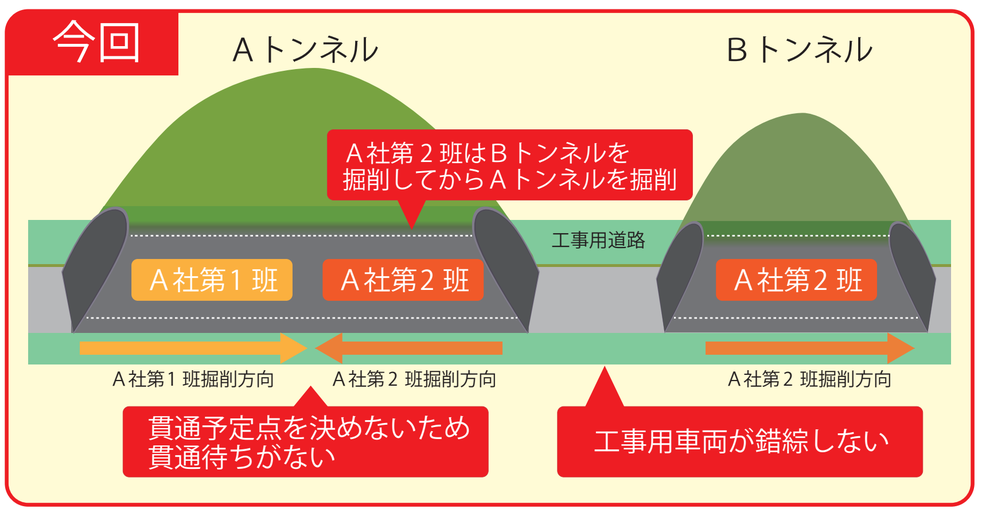
早期着工・完成を目指して

工事発注の規模を大きくしました。

- ☑ トンネル工事と橋梁工事の一括発注
- ☑ 施工方法の合理化が可能
- ☑ 発注件数と工事時間、調整頻度を減らす

施工期間の大幅短縮





宮古盛岡横断道路での大ロット工事 事例

国道106号 川井地区トンネル工事　工事概要

工事概要

宮古盛岡横断道路（延長約66km）の地域高規格道路の内、川井第1トンネル（L=1,764m）、川井第2トンネル（L=1,782m）、中川井橋（上部工 L=18m）をつくる工事です。

- ■ 工　事　名 ： 国道106号 川井地区トンネル工事
- ■ 工 事 場 所 ： 岩手県宮古市川井地内
- ■ 工　　期 ： 平成29年11月15日～令和 3年 3月 5日
- ■ 工 事 内 容 ： 【トンネル】
  川井第1トンネル：延長 L=1,764m
  川井第2トンネル：延長 L=1,782m
  【橋梁】
  中川井橋
  形式：PC単純プレテンション桁橋／橋長：18.0m




▲川井第1トンネル


▲川井第2トンネル


▲中川井橋


▲川井第1トンネル


▲川井第2トンネル


▲中川井橋

震災・復興10年
進もう!次の東北へ

復興道路

宮古盛岡横断道路 「見える化」の取り組み

平成30年10月 6日（土） R106の日　イーストピア宮古



震災・復興10年
進もう!次の東北へ

復興道路

宮古盛岡横断道路 「見える化」の取り組み

令和元年 9月14日（土）やまびこフェスタ 道の駅 やまびこ館



震災・復興10年
進もう!次の東北へ

復興道路

宮古盛岡横断道路　現場見学会

令和2年12月 4日（金） 岩手県立宮古商工高等学校　生徒



震災・復興10年
進もう!次の東北へ

復興道路

宮古盛岡横断道路　現場見学会

平成30年 9月26日（水） 岩手大学　学生



震災・復興10年
進もう!次の東北へ

復興道路

宮古盛岡横断道路　CSR活動

平成30年 8月11日（土） 腹帯まつりの会場設営に協力



震災・復興10年
進もう!次の東北へ

復興道路

宮古盛岡横断道路　CSR活動

平成29年10月 6日（金） R106の日　清掃活動

